

第13回「ハートミーティング」意見交換の内容について

メンバー 京都市では、昭和5年に下水道事業を開始して以来、今年が80周年に当たる節目の年です。そこでまず、下水道80年の歩みについて触れたいと思います。

私たちの先輩は、快適で衛生的な生活を支えるとともに、大雨による災害からまちを守るために、多くの困難を乗り越えて下水道の整備を推進してきました。その結果、平成21年度末には市内において下水道の人口普及率が99.2%にまで達するようになりました。

そして、現在の下水道事業は管路の設計、建設、維持管理や水環境保全センターにおける水処理、汚泥処理、それに伴う設備の設計、建設、維持管理、ポンプ施設の運転管理など多様な業務を含んでいます。

また、門川市長がお生まれになる前から事業が開始されていたと考えると、改めて歴史の重みを感じています。

メンバー 一方で、下水道は市民の皆様にとっては、当然のように利用することができ、当たり前のようにある施設でもあり、私たちの取組は市民の皆様にも知られていくものです。

そこで、今年は「80周年」をキーワードとして、下水道事業について市民の皆様に関心を高めていただくとともに、理解を深めていただくよう下水道事業80周年記念事業を実施しています。



記念事業は、鳥羽水環境保全センターの一般公開事業、総務課の広報事業、職員提案制度の活用など、最小の経費で実現できるよう、職員の創意工夫と手づくり感あるものとなっています。

メンバー この記念事業を積極的に進めていきたいと考え、下水道80周年記念事業プロジェクトを立ち上げました。下水道部のすべての所属からメンバーが集まって結成し、チームの構成員は合計27名です。

チームの最初の仕事は、下水道部のすべての所属に記念事業のアイデアを募集することでした。募集の結果、60件を超える事業アイデアが集まりました。そして、これらのアイデアについては、チームでの議論の結果、削るのではなく、可能な限り多くの事業を実施していくことを決定しました。その一つが、鳥羽水環境保全センターの一般公開で、イベントを開催するというものです。

メンバー 下水道事業開始80周年ということで、4月23日（金）から4月29日（木）まで、期間を7日間に拡大して一般公開を行い、4月24日（土）、25日（日）は、我々プロジェクトチーム員もブースに立ち、豪雨体験の実施、下水道の昔の工事写真や鳥羽水環境保全センターの写真などの展示を行いました。土曜日は寒かったのですが、日曜日は暖かく、大変盛況で、2日間で約9,000名の方にお越しいただき、そのうち、約500名の方々に豪雨を体験していただきました。

豪雨体験は、岐阜県多治見市の砂防国道事務所にお借りした降雨体験機で、市民の皆様にゲリラ豪雨がどういうものかを体験していただき、浸水対策事業について理解を深めていただくために実施したものです。

この体験をされた市民の皆様には、体験の後、浸水対策の説明をさせていただき、「頑張ってください。」と激励されることもありました。

私は日常、関係業者の方との調整や設備の維持管理に従事しており、市民の皆様とあまり触れ合う機会がありませんでしたので、この経験を通じて、市民の皆様と対話し、下水道の大切さを直接伝えることができ非常にいい体験となりました。

市長 80年にもなるんですね。下水道事業が開始された昭和5年は、どういう年であったか、みなさんは御存知ですか。

今、100年に一度の金融経済危機と言われています、その100年前のものが、昭和4年のウォール街から発した金融経済危機で、昭和恐慌の時期にあたります。不況の影響で、鞍馬の火祭りまでが中止になったのが昭和5年です。

そんな100年に一度の経済危機の時に、京都市は観光課を設置しています。そして、北山、東山、鴨川周辺を風致地区に指定しました。昭和5年には、京都駅の観光案内所を拡充しています。観光都市行政のスタートは危機の時に。また、今日の景観行政の土台づくりも危機の時に。

そして今、快適な生活ができる基盤としての下水道事業のスタートも同じ経済危機の時に始まったということを考えると、今の経済危機の時期に、我々が何をしたのか、80年後に評価されるということになりますね。

80年後に、下水道事業プロジェクトで、すごいことを始めてくれたと評価されるかも知れませんね。

メンバー そう言われるように頑張りたいと思います。

市長 私自身の生活でも、下水道事業の恩恵を感じた経験があります。そして今、皆さんのような若い京都市職員が、これまでの先人たちの偉大さを市民の皆

様に知らせると同時に、自らも新しい事業に取り組み、発信していることを聞き、非常に頼もしく思っています。

メンバー 市民の皆様からは、下水道事業は見えにくい事業で、なかなか気づいてもらえないところがあります。市民の方に大切さをPRする場も少ないので、今年、いい機会を与えていただきました。いろんな方向から市民の方にPRし、事業を高めていけるようなプロジェクトチームになればいいなと思っています。80年後、100年後によかったと評価されるようなプロジェクトチームでありたいと思っています。後輩たちも90周年、100周年の時にさらによかったと評価されるよう、頑張ってもらいたいと思います。

市長 100周年の時は、皆さん、まさに組織の中心にいるでしょうね（笑）。見えにくい仕事ではありますが、まさに縁の下の力持ちと言えると思います。

メンバー 今後の下水道事業に求められることを考えると、浸水対策として、大雨があった時にまちが浸水しないような構造を、下水道の事業の中で構築することや、最近急速に活発になっている事業で、地震発生時にも下水道の機能を保持できるようにという地震対策が主な課題になると考えています。

市長 30年ほど前、水の環境という観点から、学校給食では合成洗剤の使用をやめて、石けんに変えようという市民団体による運動がありました。



実現すれば、これは素晴らしいことなんです。しかし、当時は現場の作業工程等の課題があり、私たち行政の立場として厳しい取組でした。

結論としては、学校給食で合成洗剤を一切使用せず、例えば、廃油からできるスクール石けんを使用することになりました。そして手洗いです。現場の給食調理員さんがとても頑張ってくださった。今でも、政令市初の取組です。

この市民団体は、下水が良くなったということで、一定運動を終息させられました。やはり市民の皆様には知ってもらってないと思いますが、この間、下水処理場での浄化を高めてきたという努力はすごいものです。

また、合成洗剤から石けんの使用への転換というのは、言わば利便性との戦いでもありました。しかし、現場の人たちの頑張りで実現しました。

このような現場の人の頑張りは、学校給食でレトルト食品を使わない手づくり給食の充実という取組につながりました。

一つの難しい問題に真正面から取り組んだ時に、その次なる展開を導き出

しました。私には思い出深い経験の一つです。

以前、世界水フォーラムの報告会が京都でありました。その時、その支援メンバーの中で、鴨川の水を汲んで、お茶会をやるかと言う話が出ました（笑）。それを世界発信しようかとも話しました。鳥羽水環境保全センターの下くらいでお茶会をやったらどうですか（笑）。

メンバー 下水処理後の河川への放流水は放流基準を十分クリアしています。しかし、飲料水として適切であるかは、なかなか難しいかも知れません。

市長 なるほど。でも、京都の下水処理は本当にすごい仕事をしていて、徹底的に研究しているというところで、それを高く評価していただいている市民の方もおられます。それぐらい京都の水道行政が頑張っここまできたということがよく分かります。同時に、期待に応えてなお、努力が必要ですね。

メンバー この８０周年を記念しまして、広報という点からロゴマークをつくってはどうかという案が出てきました。これも職員に募集をかけたところ、局内から合計４４点ものアイデアが出ました。その中から下水道８０周年記念事業プロジェクトチームで検討を行った結果このマークに決定しました。

専門の業者さんをお願いしたら、もっと洗練されたものができたかもしれませんが、職員に考える機会を与えてもらうことも励みになりました。

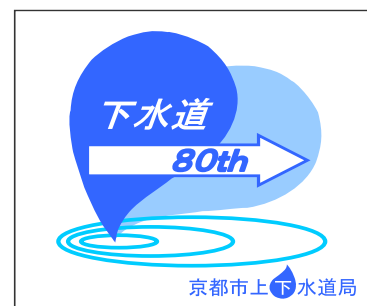
このロゴマークは、下水道部から提案された案で、青を基調として、洗練された水のイメージを与えるとともに、「下水道事業のこれまでの８０年、さらに将来に向けて」をうまく表現していると考えました。

市長 提案をした職員は、イラストを作成するような心得のある人ですか。

メンバー 特にそのような専門的な勉強をした職員ではありません。

市長 素晴らしいと思います。皆さんの能力開発の良い機会にもなっていると思います。

メンバー また、広報活動として、３月１５日（月）、プロジェクトメンバーが地下鉄京都駅でＫ



ＢＳ京都ラジオに出演させていただき、下水道事業のＰＲを行ってきました。

ここでは、京都の下水道事業が８０周年となり、記念事業を行っていくことや、下水道事業が衛生的な生活を支え、浸水対策や環境の保全などの役割を果たしていること、下水道に係る注意点などをＰＲしてきました。

今回のラジオ出演で、なかなか普段の生活では気にしない下水道というものを、少しは市民の皆様にもＰＲできたのではないかと考えています。

市長 下水道に係る注意点というのは、例えばどんなことですか。

- メンバー 下水道に生ごみをそのまま流さないようにといった一般的なことです。
- 市長 飲み残しのビールをそのまま下水道に流すのと、いったん、人間の体内に入って排泄物として出すのとでは、自然界が分解する負担が大きく違います。これと同じように何げなく飲み残しを流したら、これが下水処理にどれだけの影響を与えているか、日ごろ私たちが何げなくやっていることが環境に影響を与えてしまうということをよく考えなくてはなりません。
- 食べる、飲むということだけではなく、何事も「必要な分だけ」という観点を忘れないことが重要ですね。
- メンバー 今後の８０周年記念事業としては、蹴上の一般公開で８０周年記念のブースを出します。
- また、９月１０日が下水道の日ですので、それにあわせて８０周年記念事業として、記念となる取組の実施を検討しようと思っています。
- 他にどのような広報活動があるか、市長からも御意見をいただければありがたいです。
- 市長 鳥羽の藤は２０年になりますよね。蹴上のツツジも素晴らしいと思います。ともに早くから、先人達が植えて育ててきてくださった。ありがたいですね。
- このような先人の取組を活かして広報することは良いと思います。
- メンバー 今回の鳥羽水環境保全センターの一般公開では、「今年は何周年でしょう」などのクイズをすることで、８０周年の広報を行いました。お花を見に行ってみようと来られた方が、下水道８０周年を知ること、少しでもつながればいいなと思います。
- 市長 下水道の人口普及率が９９．２％ということですが、さらなる普及もとても大きな仕事です。
- メンバー 一箇所でも多く接続していただいて下水道を利用していただけられるように助成制度を設けています。制度等を丁寧に説明して、何とか接続していただくよう、日々努力しているところです。
- 市長 取組の状況はどうか、これまで様々な事情があって、下水道に接続できていないお宅もあるのではないですか。
- メンバー 非常に苦労しています。理解していただくために長時間の説明が必要な場合もあります。借家問題などの個別の事情により、なかなか水洗化の話が進んでいかないことも数多くあります。法的には３年以内に水洗化しなければならないということになっていますので、今後どのように働きかけていくのが課題になっています。
- 市長 皆さんには、非常に御苦労をいただいていることと思います。この取組は、

環境的な問題という側面もありますので、縦割りになることのないように、環境政策局と連携して進めていくことが重要です。

メンバー 環境政策局とは定期的に打ち合わせを行いまして、進ちょくを確認するなど連携を図っているところです。

徐々にではありますが、実績は出ています。

市長 行政というのは、徹底してサービスを提供していかなければなりません。これまでのすばらしい京都市の下水道事業の実績が、個別のサービスだけでは市民の方にはなかなか理解してもらえない現状がある中では、個別に説明しているだけでは物事は大きく前進しません。その時には、現場が努力したことが前提ですが、その現場から声を上げて、制度の枠組みを議論するきっかけを与えてください。それには現場の第一線で日々努力してもらって、課題意識を持つことが必要だと思います。



制度を新たに組み換えたら大きく前進するという場合は、制度を改革しましょう。その時は、現場にいる皆さんが課題意識を持ち、最大限の努力していることが土台となります。

メンバー 最近、世界的に環境問題が注目されています。そのような中で、上下水道局にも、市民の方々の目が向けられていると思います。京都における下水道の人口普及率は99.2%に達しており、維持管理の段階にきていると思います。

今後、効率的な維持管理というものを市民の方々から求められていく時代になると思いますが、下水道管の維持管理は、これも目で見て感じていただくことが難しいものです。このため、今後の下水道事業については、目に見えるように取り組んでいく努力が必要だと思います。

また、公共事業として、最も求められているサービスを行っていく、効率的なサービスを行っていくことも大事なことでと思います。これからは、市民の方々が求められているサービスが何なのかを判断をすることが、大きな課題になってくると考えています。

市長 そのとおりですね。確かに、公共事業は無駄がないか十分点検し、減額も必要です。少子長寿化時代のニーズを的確に把握し、大胆に転換していくことは大事です。同時に、今だけを見てはいけません。上下水道事業は、市民の命を守る事業ですから、何十年単位、100年単位で考えて、取り組んでいく必要があります。この、オール京都市として借金総額が減っている

要因の一つとして、上下水道事業への昭和50、60年代の大きな投資による償還が進んできていることがあります。今後どの程度の投資を行っていくのかを考えるとときには、これまでの貢献と未来の事業について、説得力のある「見える化」を図ることが大切です。

メンバー　　つい最近のことですが、勤務している事務所で昨年度までは、宿日直制度により24時間体制で市民対応をしてきましたが、事業の効率化を推進するため、平成21年7月から宿日直制度を廃止し、休日・夜間におけるお客様からの問い合わせ等の電話について、専門の民間業者へ委託し、業者が市民対応することに変更しております。

時間外に市民が鍵を側溝等へ落とされた場合などで、緊急対応を望まれる場合は、実費負担で対応していただくことを原則としていますが、これまで、当直しております職員がサービスとして対応していた場合もありましたが、これからは、緊急対応を望まれる場合は、実費負担で処理していただくことになります。このような事例は頻繁に起こるものでもないので、対応の変化を市民の皆様はあまり御存知ではありません。

しかし、事業や手続きの変更について、市民の皆様がどのように考えられているのかということを理解して業務を行うことはとても重要だと思います。このためには多くの努力が必要だなと思います。

市長　　上下水道事業は、独立採算が原則ですから、利用する人は利用して、利用しない人がこれを負担するということにならないように、事業の見直しはどんどん行う必要があります。

メンバー　　局内でも、使用される方が納得していただけるのであれば、負担をしていただく代わりにサービスを充実させることも一つの選択肢としてはあるのではないかという議論となることもあります。しかし、値上げということは厳しい状況にありますので、どのようなサービスを、今、いただいている料金の中で提供できるのかという取捨選択についてが主な議論になります。

先ほどの話にありました、宿日直制度を廃止して夜間・祝日の電話対応を民間委託に切り替えたわけですが、市民の皆様にとってみれば、電話の受付を民間の業者が行こうが、職員が行こうが、水が漏れている状態や陥没している状態が、適切に直ることが重要であるという評価をいただいていますので、民間委託に対する御批判は現時点ではありません。

市長　　スムーズに移行できたということですね。

行政の何が悪いのかを考えると、縦割り行政、行政主導、二重行政、三重行政が挙げられます。縦割り行政の部分は、まだまだ頑張って改革しないと

いけないと考えています。融合モデル事業として、浸水対策、緑化事業など、
どんどん進めてほしいと思います。

市民の皆様は、例えば環境政策局の仕事、上下水道局の仕事、都市計画局
の仕事はみな一緒になって捉えています。実際にこのような融合が京都で、
現場中心に実現できたら、素晴らしいモデルになると思います。

メンバー プロジェクトメンバーは、本日の市長との意見交換の内容を十分に踏まえ、
これからの京都市を支えていくよう、それぞれが頑張っていく決意を新たに
していると思います。市長には本当に貴重な時間をいただき、ありがとうございました。

市長 このように、採用後間もない若い人たちが、京都の下水道事業を前進させ
ようと、これだけのことを考え、それぞれの直面している仕事の枠を越えて、
市民に知ってもらおう活動などに取り組んでいる姿に感銘を受けました。あり
がとうございました。

一同 ありがとうございました。

以上